

学校名： 秦野市立本町中学校

担当教科： 英語科

氏名： 石井 陽子

1. 今回の研修における目的やねらい

今回の研修における目的やねらいは3つあります。1つ目は外国にとっても興味があり、その国のことを自ら体験し、現地の方との交流を通して自分の視野を広げていくことです。また、カンボジアで活動している日本の方との交流の機会があるので、日本人がカンボジアで生活していて感じることを教えていただき、多方面からカンボジアを知ることです。

2つ目は、外国籍生徒との関係を築いていくヒントを見つけることです。私の勤務している中学校には外国籍の生徒が多く通っています。カンボジア出身の生徒もいます。生徒が生活してきたバックグラウンドを知り、他の生徒に伝えることで、周りの生徒がカンボジアを身近に感じ、仲間作りのきっかけができると考えました。

3つ目は、私の経験を通して、世界の国や人に興味を持たせられるようなことを学んでくることです。授業の中で、自分が外国へ行って体験してきたことの話をするのが好きで、生徒たちもその話をいつも楽しみにしてくれています。「先生が行った国に行ってみたい」、「私も外国に行ってみよう」、「その国についてもっと知りたい」という声を生徒から聞いたり、実際に行動に起こしている生徒もいます。生徒たちは私を通してその国を知ることができるので、良いところ、悪いところ、課題等があることを踏まえてカンボジアのことを伝えたいと思います。また、このことをきっかけに他の国にも関心をもてるようにしたいです。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

今回の研修の目的やねらいは、ほぼ達成できました。初めてカンボジアに行って、カンボジアという国や人が好きになりましたし、私が見たり、感じてきたことを誰かに伝えたいと、とても思います。これから授業を行っていく中で、この目的やねらいが達成できたということが実感できると思います。ただ、生徒にカンボジアについて伝えるには、伝えきれないこともあると感じました。それは、カンボジアの歩んできた歴史や社会の状況については自分自身が勉強不足だったと感じる部分が多いからです。そのために、カンボジアについての思い込みや偏見を持たせないように伝えていく必要があると感じています。

3. カンボジア国から学んだこと

カンボジア滞在中に学んだことはたくさんあります。その中でも一番強く感じたことは「人材」の大切さです。カンボジアは開発途上の国かもしれませんが、未来への可能性をたくさん持っている国だともいえると思います。人が世界を、自分たちが生きる場所を創りだしているということをととても感じました。今回の研修ではいろいろな人との出会いがありました。その方々から「人のもつ力」の偉大さを教えてもらいました。

シニアボランティアの金子さんからは、言葉以外の手段でコミュニケーションをとることの大切さを学びました。最小限の言葉でも、合気道という活動を通して、日本の文化に触れることができます。また、一緒に活動することで、日本人、カンボジア人という枠が消え、同じ目的をもった仲間になりえます。

プレイヴェーンの PTTC を訪れたとき、電気のない学校に電子ピアノがあっても使えない、電子ピアノの電源が入っても、ピアノが弾ける人がいない。ピアノを送ってもらっても、もったいなくて使わない。パソコンがあっても壊れてしまったら修理ができず、そのまま放置されている。こんな状況を見たときに、「もの」ではなく、その「もの」が使える人が必要なのだと思いました。ここで活動されている小松さんは「もの」がない中でも、カンボジアの人の生活の中にある身近なものを使って、実験道具を作っていることに驚きました。実験道具がなくても、身近なものを代用することで、本当に教えた原理は教えられます。彼女の発想力と教育への熱意がカンボジアの教育を変えていくのだと思いました。

自分の夢を達成するために母国カンボジアに戻り、学校を一から作り上げたコンボンさん。自分自身が辛い体験をされたからこそ、母国のために貢献したいのだという熱い気持ちに心を動かされました。自分の夢を実現させるために一所懸命努力してきた彼のひたむきな姿勢はとても大切なものだと思いました。

IKTT でお世話になった森本さんからは、人を動かす力や想い、自分の得意分野に自信を持つことを学びました。森本さんの話を聞いて、森本さんの村での立場は教員と似ているなど感じました。彼は村長ではなく、スーパーバイザーだと言っていました。村の人たちが自分たちでコミュニティーを運営できるようにアドバイスをしたり、手助けをしていました。何か問題があっても自分たちで解決しなければ、根本的な解決にならないので、森本さんが解決するようなことはできるだけしなうと言っていました。また、彼が村の人のことを話すとき、自分の家族であるかのように、一人一人を誇らしげに紹介してくれました。私はいつも、「学校は小さな社会のようなところだよ」と生徒に話してきましたが、森本さんの話や村の人に会って、彼らの活動を見学して、コミュニティーの運営も、学級の運営も似ているところがあると感じました。そして私のやっていたことは良かったのだという安心感、もっと生徒一人一人が活躍できるように、その子の得意分野を見つけていこう、全体を組織していくことの重要性を改めて感じました。

これから教員としてどんな「人」を育てていく必要があるのかということをとっても考えさせられました。自分の持つ良いところを精一杯活用し、自分ができることをやっている人たちは、自分が取り組んでいる活動に誇りを持っていました。そしてその方々の笑顔は本当に素敵でした。生徒に「援助・支援」を考えさせるよりもまず、自分の好きなことや出来ることが分かっている、人との違いをすんなりと受け入れられるような「人材」を育成していくことが私にとって大切なことなのではないかと思いました。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

・教科指導の中で

英語の授業の中で他の国について触れるときは、外国という国の枠を感じさせないようにしたいです。常に「この国はこういう国」、「この国の人はこちらの人たちだ」というような先入観をもたせたくないと思っています。実際に自分がその国の人に会ったときに、相手も自分も一人の人として接することができるように、人対人のコミュニケーションがとれるような授業を考えていきたいです。しかし、その際に、相手のバックグラウンドを知っておくことは大切だと思いますので、知識として、他の国についてはたくさん紹介していきます。

今回のカンボジア研修の中で、事前に3年生がカンボジア日本友好学園の生徒に宛てて手紙を書きました。その返事を書いてもらったので、カンボジアの生徒が普段どのようなことを考えているのかを紹介し、自分たちの生活と比較させたいと思います。

また、3年生は2年生の時に教科書の中で、カンボジアの地雷について学んでいます。その現状を

とても知りたがっていたので、今回訪問させていただいた JMAS の活動や、写真、教科書に載っていた “ Danger sign ” の実物を見せながら話をしたいと思います。そして改めて平和について、他国のために活動する人のことを考えてもらいたいです。

・日頃の教育活動の中で

私は今、1年生の担任をしているので、生徒たちの持つ発想力や自由なアイデアを大切にしていきたいと考えています。また、自分と他人との考え方の違いを楽しめるような活動を多く取り入れ、お互いを認めあえる関係作りを目指します。住む場所が違ったり、国が違うだけで、みんな同じ人間です。まずは身近にいる人と自分との違いを受け入れられるようになることから始めていきます。そしてそれがいつか、世界の人たちとの関わりを持つようになったときに、自分の友達という感覚が持てれば、自然とお互いに助け合ったり、協力することができるようになると思います。

生徒が何か一つ、自分のできることをみつけられるようにする。全てが完璧に出来る人ではなく、自分が好きなこと、出来ることを一生懸命にやれる人を育てていきたいです。自分のもつものが、いつかどこかで活躍するときがきっと来ると思います。そういう人が世界の中でも必要とされ、輝いていくのではないかと思います。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

今回の研修で一番よかったと感じたことは、「人との出会い」です。私は人から学ぶことが好きなので、その人がどういう想いで活動されているのか、どんな人柄なのか、どんな困難を乗り越えてきたのかなどを聞くことができ、とても勉強になりました。その話から学ぶことも多かったです。勇気づけられることも、励まされることもありました。自分自身の考え方が広がったように感じます。カンボジアを訪問するのは初めてでしたが、「初めてきた場所、外国」ということを全く感じませんでした。それだけ自分自身の受け入れる幅が広がったのかなとも思いましたが、今回の研修では人と話す時間をたくさん取り入れてくださったからだと思います。カンボジアの人というよりも、その人個人としての関わりが大きく、その土地に住んでいる人の話として聞くことが出来たからだと思います。本来、国という枠を考えずに人との関係が築けたらいいと考えていましたので、私にとって本当によい研修となりました。また、今回の研修と一緒に参加した教員の方々、JICA の職員の方々との出会いにも感謝しています。

この研修をよりよくしていくためには、事前研修で、研修中の流れや計画を話し合う時間が必要だったのではないかと思います。研修の中で話し合いの時間はもちろんあったのですが、いろいろ学びたいこともあり、現地での活動内容などの細かいことまで一緒に考えることができませんでした。個人個人の思いもあるので、その思いを伝え合う場があるとよいと思います。

6. その他研修全般を通じての感想・意見など

今回の研修に参加させていただいたことには本当に感謝しています。多くの方がこの研修のために準備し、関わってくださったことは本当にありがたかったです。おかげで貴重な体験ができ、多くのことを学ぶことが出来ました。

教員になって5年が経ち、仕事の面でもいろいろな心配を抱え、自信を失いかけていた時にこの研修に参加し、多くの人と出会い、自分らしさを取り戻すことができたように思います。本当に自分が好きなことはなんだったのか、自分ができることはなんだったのか。そしてこれから自分はどんな教育をしていきたいのか。周りの人から言われて不安になったことや、悩んでいたことがとても小さなことに思えました。自分が好きなことを一生懸命にやっていいという励ましももらいました。カンボジアで出会った人たちから元気をもらい、自分自身を振り返ることも出来ました。カン

ボジアの人たちのたくましさ、生きるエネルギーの旺盛さ、学ぼうとする意欲。そして笑顔のすてきなところ。ぜひ見習いたい、日本の子どもたちに伝えたいととても思いました。これから子どもたちを育てていく中で、まずは自分自身が好きなことを一所懸命にやって、どんなことも受け入れられる広い心を持ち、発想力を豊かにして、柔軟な頭と心を持った人になろうと思います。子どもたちの見本となるように、そして、子どもたちを今すぐに変えることはできないけれど、いつか何かの時に芽がでるように、心の中に何かを残していくことはできると思います。同じ世界の中で、どんな人とも一緒に活動できる人を私は育てていきたいと思いました。

カンボジアという国をいろいろな面から見させていただき、体験させてもらっただけでなく、私自身まで成長させてくださったことには本当に感謝しています。いろいろな人から学ばせてもらったこと、私が感じたことを子どもたちに伝えていきます。ありがとうございました。

7. 今後の本研修参加者へのアドバイス等

体調管理と事前打ち合わせです。まず、体調に関しては、夏休み中の研修ですが、成績処理等の学期末の業務や部活動の大会などがあり、忙しくて自分の体調を万全にすることが難しかった時期でした。それに加えてカンボジアの暑さや湿度の高さ、活動の内容によって水分をこまめにとっていても熱中症になることもあります。活動に制限が来てしまうので、体調管理はしっかりと行った方がよいと思います。

事前打ち合わせですが、参加者一人一人がいろいろな目的や思いをもって参加しているので、統一できることは、みんなで相談しておくとうよいと思います。

一つ一つの研修がとても素晴らしいものですので、自分が感じたことだけでなく、仲間が感じたこととの意見交換ができるととてもよいと思います。